

第1回 松ヶ岡建造物整備委員会（議事録）

日時：平成27年3月21日（土）
10：00～14：00 まで
会場：松ヶ岡（旧山崎家住宅）

1 開会

2 挨拶 教育長

3 趣旨説明 事務局・・・資料①

4 委嘱書交付

5 自己紹介・・・名簿順に自己紹介。

6 正副委員長選出

- ・委員の互選により、柳澤委員長、長尾副委員長が選出される。

就任挨拶

委員長

- ・プロジェクト推進委員会では、市民から協力を得ていくことを考えている。この松ヶ岡は重文にふさわしい修復をしたい。プロジェクトと整備委員会のかすがいの役割をして、連携させていきたい。整備方針について、御指導をお願いしたい。

副委員長

- ・松ヶ岡には初めて訪れた。副委員長の任は重いですが、頑張りたい。

7 議事・・・進行 委員長

（1）建造物調査結果による建物の概要と評価について

資料②を説明・・・事務局。副委員長から補足説明。

○議論

- ・プロジェクト推進委員会では、歴史的価値があるものは保存、その後に作られたものはカフェなどにして活用したいと考えている。松ヶ岡を保存するために、掛川銀行を復元して様々な活用に使い、ここは歴史を学ぶ場としたい。いつの時代に合わせて整備を進めていけばいいか。
- ・行在所として使われたことと戦前までにできた豪商の屋敷であることの二点が特に重要。行在所に使われた状態に整備すれば、残すべきものは主屋だけ。後世に失われたものは、今の物を取り壊して復元することになる。さらに、戦前期の屋敷構えとして整備する方法では、幕末から近代までを対象とすると、年代幅が50年くらいある。その点が文化財としてどう残すか考える上で、一番難しい。どちらが将来的によりよい姿を描けるかが大事だ。例えば、今あるトイレがたいしたものではないから、それを壊して行在所時代“風”の物

にしてもいいが、それは作られたものに過ぎない。それよりも、明治時代に設置されたものを残していく方がいい。

- ・江戸後期の建物の特徴、近代初期の建物の特徴を有しており、どちらも外すことはできない。奥座敷もこの建物の価値づけとして重要。江戸後期の屋敷が近代に向かってどのように姿を変えてきたのかを最もよく残している建築物だ。
- ・行在所当時の姿に整備をすると、残る物と残らない建物が出る。まず、松ヶ岡をどう使いたいかを考えなければならない。残すべき建物を検討してほしい。松ヶ岡は改造されている部分が多く、新しい建物もある。それは生活をしてきた人が必要だから建てたものだ。整備に必要がないといって、壊してしまうのはその生活を壊すことにつながり、価値を失わせるかもしれない。
- ・保存活用検討委員会では、掛川銀行を復元し、活用の受け皿とすることになった。松ヶ岡は漢籍や近代の金融論などを勉強した人が育った場所であることをアピールし、掛川銀行を活用の場として維持管理費などを生み出したらどうか。

(2) 修復事業について・・・事務局 資料③

○議論

- ・プロジェクト推進委員会の思いとしては、「本物を残したい」と考えている。
- ・整備委員会とプロジェクト推進委員会と修復計画の3つが連携していかなければならないので、それぞれの動きについて、今後報告してほしい。
- ・整備が活用と関連していくことがわかった。プロジェクト推進委員会でも議論をして、再度整備委員会で報告したい。そこでまた整備委員会から助言をいただければと思う。

8 閉会（12：00）

○昼食後、松ヶ岡を見学し、終了（14：00）した。

以 上